

お客様ならびに販売店（取付店）様へ
**安全にお使いいただくために
必ず最初にお読みください。**

※安全上の注意事項※

パッケージ、取扱説明書に記載してある指示及び警告、注意に反したご使用により損害が発生した場合、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が
想定される内容を示しています。

- ・製品包装のビニール袋等は、子供や幼児がかぶったり吸い込んだりしないよう、手の届かないところに片付けるか、廃棄処分してください。
- ・マフラー、エンジン、ブレーキ等はエンジン始動中及び停止後しばらくは高温になっています。触れると火傷等の怪我や衣服等の可燃物が燃える可能性がありますので、その部分がきちんと冷えるまで人や動物が触れることがないようにしてください。また、近くにガソリンなどの危険物や燃えやすい物を置かないでください。作業を行う際は、エンジンなどがきちんと冷えてから行ってください。
- ・本商品に使用されている全てのボルト／ナット類（商品に組み込み済みボルト／ナット類を含む）は取り付けるときに、必ず締め付け確認を行ってください。締め付けは記載された規定のトルクにて確実にいき、記載の無いものについては車両のサービスマニュアルもしくはボルト／ナット類のサイズ／種類にあった規定のトルクにて締め付けてください。締め付けが不確実な場合や組み付け不良等は走行中などに部品が脱落し、事故等に繋がります。
- ・取り付け後は100Km程度の試運転後、各ボルト／ナットを規定トルクで増し締めを行ってください。その後も500Km程度ごとに同様の増し締めを行ってください。走行前には、必ず各部の点検及び増し締めを行い、定期点検は必ず行ってください。
- ・エンジンを始動するときには、換気の良い場所で行ってください。
- ・エンジン始動時は排気口に手を出したりしないでください。火傷や排気ガス中に含まれるガラスウール等が目や手などに刺さる恐れがあります。
- ・走行中に異常が発生した場合は、直ちに走行を中止し、安全な場所に停止して、異常個所の点検を行ってください。
- ・作業は必ず、水平で安全な状態が確保できる場所で車両を安定させてから行ってください。
- ・ドライブチェーン、スプロケットなどの回転部分やブレーキ、クラッチレバー／ペダル等の可動部分に手や衣服等を巻き込まれないように注意しながら作業を行ってください。
- ・ガスケット、リング、割ピン等は取り外し毎に必ず新品に交換してください。
- ・一般公道（舗装路）において法定速度内でのご使用を想定しております。法定速度を守り安全運転を心がけてください。

注意 誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される
内容及び物理的障害の発生が想定される内容を示しています。

- ・本商品はオートバイに関する整備の一般的な知識及び技能を有する方（国家資格を持つ整備士）が取り付けすることを前提としております。それ以外の方が取り付けを行うと本書の通りに取り付け整備をしても知識不足、技能不足で正しく取り付け整備ができないため、トラブル、破損等の原因となることがあります。国家資格を持つ整備士または指定、認証工場へ取り付けを依頼してください。
- ・本商品は記載された適合車種以外への使用はしないでください。また本商品が汎用品の場合は、弊社で確認済み車両以外に取り付けたことにより起こった不具合に関しては保証の対象外となります。
- ・本商品はノーマル車両を前提に設計されています。車両に事故歴や転倒歴がある場合や別途アクセサリ部品が取り付けられている場合には適合車種でも取り付けできない場合があります。また弊社で確認済み以外の他商品との組み合わせで取り付けした場合、車両および部品を破損させる可能性があります。
- ・塗装仕上げやアルマイト処理が施された商品は、製造上、商品の裏側や取付けステー周辺の表面仕上げにムラが発生する可能性があります。その場合タッチアップペイントを施していることもあります。その仕上がりに関するクレームはお受けできません。また、地域の環境やメンテナンス次第によっては、サビや色落ち等の素材の経年変化が発生する可能性があります。耐久性や品質等が純正パーツとは異なるものがありますのであらかじめご了承ください。また、お手入れ等を行う際には、ガソリンやシンナー等の溶剤は使用しないでください。塗装や表面処理にダメージを与える原因になります。
- ・本商品やパッケージの角部等には、エッジや突起部がある場合があります。その際にはケガ防止のために、整備に適した作業着、帽子、安全靴を装着し、必要に応じて 防塵眼鏡、防塵マスク、手袋等の保護用具を着用して作業を行ってください。また、必要に応じて、ヤスリ等を使用してエッジ部や突起部の処理を行ってください。
- ・製品個体差による溶接や塗装、小傷歪み等、程度の差につきましてはあらかじめご了承ください。
- ・本商品の各部品に曲げ、切削、溶接等の追加工を行った場合は保証の対象外になり、重大な事故が起こる場合がありますので絶対に追加工等を行わないでください。
- ・本商品を取り付けることで、車両側の取り付け面にキズや塗装の剥がれが起こる場合があります。また、部品の脱着するときには、塗装面への傷付きに注意して作業してください。
- ・本商品を取り付けることで、車両メーカーからの車両本体の保証修理の対象外になる場合があります。
- ・本書は取扱説明書及び本商品の取り付けに際して取り外した部品と一緒に保管してください。本商品または本商品を取り付けた車両を譲られる際には本書及び取扱説明書や警告、注意の記載があるパッケージも併せて譲渡先へお渡しください。
- ・お客様以外が取り付けを行う場合、取り付けされる方（販売店を含む）は取り付け完了後に各部の緩み、不具合等点検後、危険箇所（バリ、突起部）無きことを確認の上、必要事項を説明し本説明書も必ず一緒にお客様へお渡しください。
- ・車両から取り外した純正部品を再利用する場合には、摩耗や破損を確認し、必要であれば新品と交換してください。

ENDURANCE RACING **グリップヒーター SP 取扱説明書 JJHAN530H01**
必ずお読みください

このたびは本商品をお買い上げいただき、有難うございます。
 正しく取り扱いいただき、末永くご愛用いただけますようお願い申し上げます。
 また本書は大切に保管してください。

安全上の注意事項

作業に始める前に本書を必ず熟読いただき、記載事項を厳守して作業を行ってください。



警告 ※パッケージ、取扱説明書の注意事項や内容を無視してご使用し、重大な事故や損害が発生した場合でも弊社は賠償等の責は一切負いかねます。

- ・本商品は、パッケージまたはWEBページに記載された適合車種以外への使用はしないでください。(最新の適合車種は弊社WEBページでご確認ください)
 また、本商品はすべての車両への取り付けを保証しておりません。車種やお客様の使用状況によっては取り付けできない場合がありますのでご了承ください。
 - ・12V車両専用です。6V車両や24V車両などには使用しないでください。
 - ・取り付けや、配線ミスにより発生いたしました破損・不具合等については保証の対象外となります。
 - ・皮膚に本商品の両面テープを貼らないでください。
 - ・本商品の取り付けには両面テープを使用しますが、両面テープでの完全な密着は不可能ですので、使用している間にはがれが生じる可能性があります。定期的なチェックを行い、走行中にはがれないようご注意ください。また、両面テープの性能を発揮させるため、装着後24時間は走行を控えてください。両面テープが浮いてしまいそうな箇所は、両面テープが密着するようにテープ等で押さえ、24時間後にそのテープを外してください。
 - ・必ず走行前にスロットルが正常に作動するかどうか、手を離れた状態でスロットルが確実に全閉まで戻ることを確認、点検を行ってください。
 - ・本商品を取り付ける際には使用する純正部品および車両各部に欠損・損傷が見られた場合はその部品の再使用を避け、新しい部品に交換してください。そのまま使用していると重大な事故等につながる恐れがあります。
 - ・取り付け後は走行前に各部に異常がないか毎回点検を行ってください。
 - ・本商品の脱落がないように確実に取り付けてください。また作業中および使用中についたキズ等については保証の対象外となります。あらかじめご了承してください。
 - ・取り付け後約100km走行しましたら各部を点検し、ネジ部等の増し締めを行ってください。その後、約500km毎に必ず点検して行ない、同様に増し締めを行ってください。
 - ・走行中に異常が発生した場合は直ちに車両を安全な場所へ停車し、異常箇所を点検してください。正常に機能しない場合にはご使用をおやめください。
- <グリップ温度について>**
 グリップヒーターは非常に高温になりますので、素手でのご使用はお止めください。レベル5や4などの高レベルの状態での常時使用は絶対に行わないでください。バッテリートラブル、やけどの恐れがありますので、高レベルは初期の急速暖め用のみのご使用としてください。
 また、レベル1や2などの低いレベルでの使用時でも、長時間の連続使用や使用状況によっては、低温やけどをしてしまう可能性があります。そのため、長時間の連続使用時にはグリップヒーターを30分以上使用しないで一旦スイッチを切るなどをしてください。
 また、グローブ装着時でも同様に低温やけどをする恐れがありますので、ご注意ください。

<バッテリーについて>

125CC以下の車両のような発電容量が低い車両への取り付けにはご注意ください。充電不足になってしまい、バッテリートラブルを引き起こすことがあります。また、長時間の暖機運転を行うとバッテリーを消費してしまい、商品が正常に動作しなかったり、バッテリー上がりを起こしてしまいます。発電容量の低い車両には、本商品では最大出力設定を行ない、車両に適した最大出力値に設定することで、グリップヒーターの取り付けによる消費電力が多くなっても、バッテリーへの負荷を減らすことができます。走行前や長期保管した車両にはこまめにバッテリーをチェックしていただき、メンテナンスを行ってください。

<重要> 取り付ける前に必ずお読みください。

HIDキットや社外品のイグニッションコイルなど高電圧ノイズが出る商品と同時に装着しないでください。高電圧ノイズによりデジタル回路に悪影響を及ぼし、メーターの誤表示、最悪の場合には故障の原因になる恐れがあります。そのため、適合は電装系が**全てノーマル車のみ**となっておりますのでご注意ください。電装系がノーマルではない車両に取り付けた場合、本商品が故障しても保証の対象外となり、一切の保証はできませんので、ご注意ください。また、本商品は完全防水ではなく、防滴構造となっております。通常の雨程度であれば内部に水が浸入することはありませんが、水中に落としたりして水没させると内部に水が浸入してしまいますのでご注意ください。

●取り付ける前に

バッテリーのマイナス端子を取り外して作業してください。
 作業が終わったら、マイナス端子は元に戻してください。

①配線の接続について (図①)

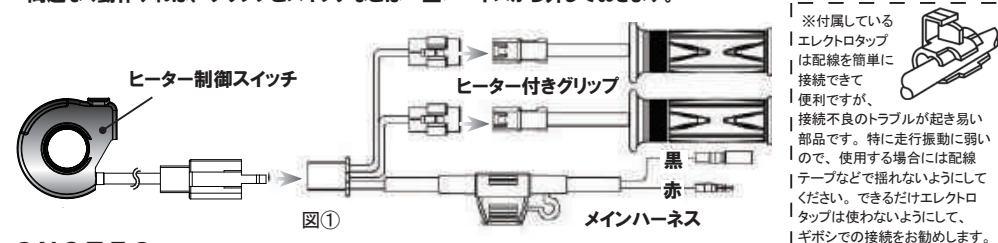
グリップヒーター側のギボシはφ3.5 (ホンダ車サイズ) となっております。車体側のハーネスに適切な接続箇所がない場合には付属しているギボシセットを使って接続してください。

<配線>

・黒 (アース線)・・・適切なアース線が見つからない場合には付属のアース端子を使って、フレームなどに直接アースしてください。(※SUZUKI車の中にはフレームアースが無い車両があります)

・赤 (DC12V電源線)・・・キーONでDC12Vの電圧がかかる配線に接続してください。

※本商品を取り付ける前に、ハーネス、左右グリップ、スイッチを仮接続してグリップヒーターの動作確認をしておきます。問題なく動作すれば、グリップとスイッチなどは一旦ハーネスから外しておきます。



※付属しているエレクトロタップは配線を簡単に接続できて便利ですが、接続不良のトラブルが起きやすい部品です。特に走行振動に弱いので、使用する場合には配線テープなどで揺れないようにしてください。できるだけエレクトロタップは使わないようにして、ギボシでの接続をお勧めします。

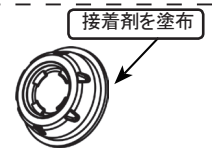
●NOTE●

ヒーター付きグリップですが、内径の小い方が左側用で、大きい方が右側用 (スロットル側) です。グリップとハンドルやスロットルパイプとのクリアランスが大きい場合には、付属のアルミシールをハンドルやスロットルパイプに貼ってクリアランスを狭くし、グリップが回らないようにしてから固定してください。または別売りの接着剤を使用して固定してください。

●注意●

車両についているスロットルパイプにグリップのズレ止め用突起 (凸) がある場合には、すべて削り取ってください。グリップがスムーズに入るようにきれいにしてください。無理にグリップを押し込むと内部の熱線が断線してしまう恐れがありますので、絶対にしないでください。

※パーエンドを使用しない (非貫通グリップとして使用) 場合、接着剤 (別売) を使って付属のエンドキャップをグリップに固定してください。

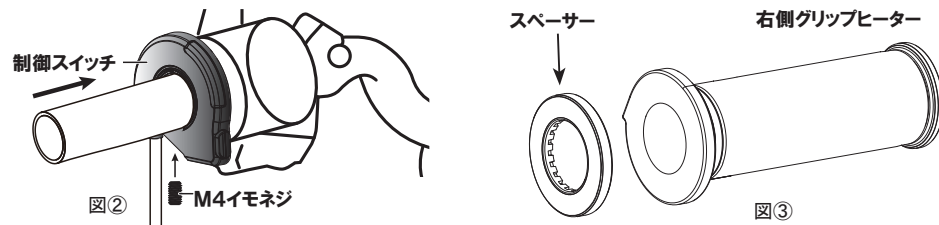


②ヒーター制御スイッチの固定について

制御スイッチを左側グリップを取り付ける前に付属のM4イモネジで適切な位置に固定してください。(図②)
 <M4イモネジ>規定トルク: 1.2N・m

③グリップの取り付けについて

・右側 (スロットル側) のグリップを取り付ける際には付属のスペーサーを入れてからグリップを取り付けてください。(図③)
 ・左側は制御スイッチを先に取り付けしてから、グリップを取り付けてください。



④ヒーター制御スイッチの動作手順について

イグニッションキーをONの位置に回すと、電圧検出モードとなり、LEDライトが白から赤まで点灯します。

●NOTE●
 その後、検出した電圧に従って、それぞれのLEDが下記のように点灯します。

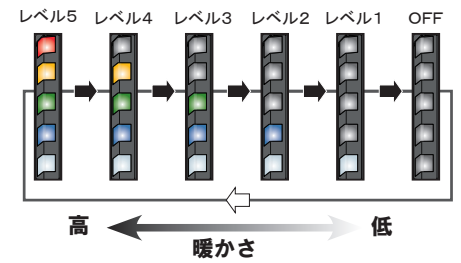
点滅するLEDの色	電圧
赤	13.1V以上
黄	12.6~13.0V
緑	12.1~12.5V
青	11.6~12.0V
白	11.5V以下

このとき、電圧表示をしたままでスタンバイモードになります。左図では現在の電圧値が12.1~12.5Vを示しています。

スタンバイモードからボタンを一回押すとヒートモードになり、グリップの暖めが始まります。

※前回キーオフにしたときの加熱レベルで暖めを開始します。

●NOTE●
 レベルは1~5の5段階で、5が最大です。LEDが全部消えるとヒーターOFFです。

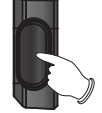


ボタンを1回押すと、レベルが1つ下がります。レベル1 (青のみ点灯) の次はOFFで、その次はレベル5になります。(上図参照)

・表示モードの切り替えについて

加熱レベルを表示中にボタンを3秒間を長押しすると、加熱しながら電圧表示をすることができます。

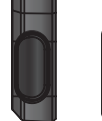
<例>レベル4で加熱中にボタンを長押しする。



ボタンを押したままで約3秒間押し続ける

左図のように、レベル4で加熱したまま、電圧表示をすることができます。

また、このときにボタンを短押しすると、加熱レベルを表示して加熱レベルを変えることができます。5秒間無操作で電圧表示に戻ります。



●NOTE●
 電圧表示モードはキーオフにすると加熱レベル表示モードに戻ります。

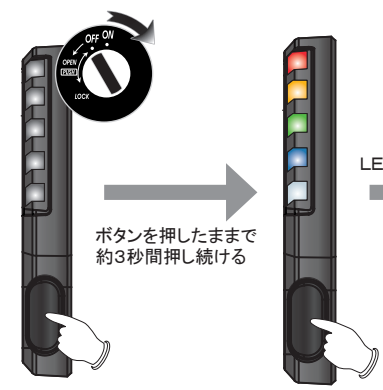
ボタンを押したままで約3秒間押し続ける



電圧表示モードでボタンを3秒間長押しすると、再び加熱レベル表示に戻ります。

⑤最大出力調整、下限電圧設定の手順について

1. ボタンを押しながら、イグニッションキーをオンにして、そのまま約3秒間押し続けるとLEDが全点灯します。全点灯したら、ボタンを押すのを止めると、最大出力調整になります。



<初期設定値>
 ・最大出力・・・100%
 ・レギュレート機能・・・11.5V

2. <最大出力調整>
 最大出力 (加熱レベル5) のときの出力を下記の5段階から選ぶことができます。
 ・5つ点滅・・・100%
 ・4つ点滅・・・90%
 ・3つ点滅・・・80%
 ・2つ点滅・・・70%
 ・1つ点滅・・・60%

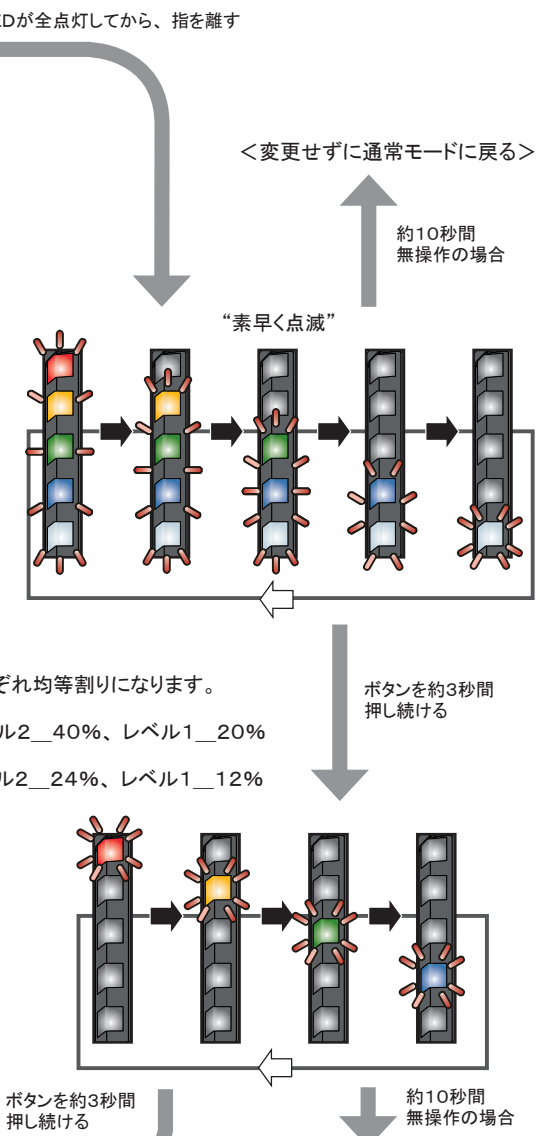
最大出力を減らすことで、発電量の低い小排気量の車両で心配なバッテリー上がりを防ぐことができます。

※車両によって、適切な設定が異なりますので、それぞれの車両に合わせた設定をご自身でお選びください。

また、設定した加熱レベル5以外の出力はそれぞれ均等割りになります。
 <例> ・レベル5_100%のとき
 →レベル4_80%、レベル3_60%、レベル2_40%、レベル1_20%
 ・レベル5_60%のとき
 →レベル4_48%、レベル3_36%、レベル2_24%、レベル1_12%

3. <下限電圧設定 (レギュレート機能)>
 設定した電圧値以下にならないように、加熱レベルを自動的に調整します。
 ・“赤”のみ点滅・・・13.0V
 ・“黄”のみ点滅・・・12.5V
 ・“緑”のみ点滅・・・12.0V
 ・“青”のみ点滅・・・11.5V

※バッテリー上がり防止のため、12.0V以上で設定することをお勧めします。

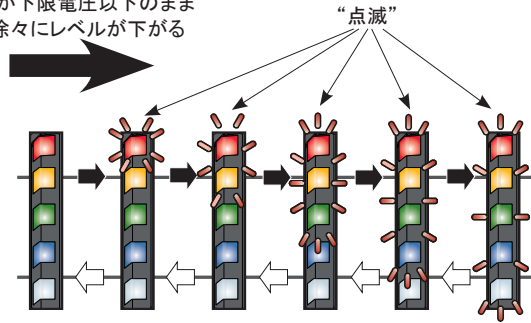


<設定変更完了、通常モードに戻る> <変更せずに通常モードに戻る>

⑥レギュレート機能について

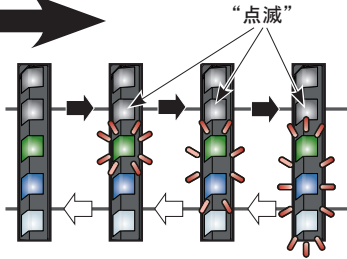
車両のバッテリー電圧が設定した下限電圧以下に下がった時に自動的に加熱レベルを徐々に絞っていき、電圧が上昇するとまた元の加熱レベルで暖めます。

電圧が下限電圧以下のまま
だと徐々にレベルが下がる



例えば、上図のようにレベル5で暖めている時にバッテリー電圧が本商品で設定した下限電圧以下になった場合、まずはレベル4になり（LED赤が点滅）、それでもバッテリー電圧が上がらない場合は、レベル3（赤、黄が点滅）、レベル2（赤、黄、緑が点滅）、レベル1（赤、黄、緑、青が点滅）というように徐々に加熱レベルを下げていきます。全点滅時には加熱オフになります。このとき、下がった加熱レベルのLEDは点滅するので、レギュレート機能が働いていることを視認できます。バッテリー電圧が上昇すれば徐々に加熱レベルは戻っていき、最終的には元のレベル5で暖めます。

電圧が下限電圧以下のまま
だと徐々にレベルが下がる



●NOTE●

レギュレート機能が働いているときには図のようにLEDが点滅して、加熱レベルが変化します。

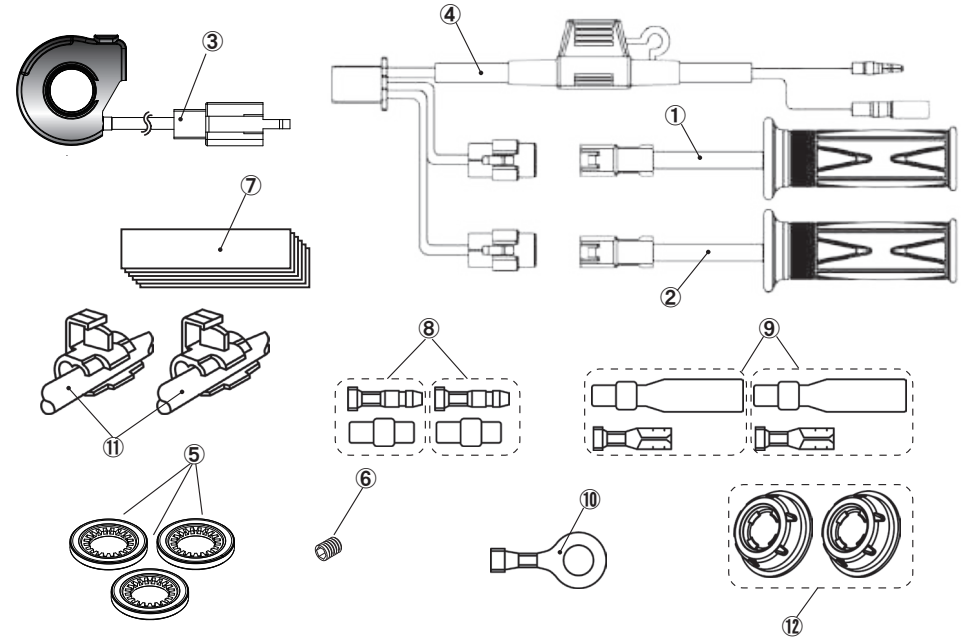
レベル3で暖めているときに、バッテリー電圧が本商品で設定した下限電圧以下になった場合、まずはレベル2（LED緑が点滅）になり、それでもバッテリー電圧が上がらない場合は、レベル1（緑、青が点滅）というように徐々に加熱レベルを下げていき、最終的にはレベル0（全点滅）になります。バッテリー電圧が上昇すれば元のレベル3で暖めます。

※グリップの長さについて

本商品は車両のグリップ長が120mm、125mmのものに対応しております。
本商品のグリップ長は120mm、125mmではなく、**115mm**となっておりますが、下記のように
<120mmグリップ長の車両>
・左側グリップ・・・グリップ長115mm＋制御スイッチ8mm＝123mm
・右側グリップ・・・グリップ長115mm＋スペーサー5mm＝120mm
<125mmグリップ長の車両>
・左側グリップ・・・グリップ長115mm＋制御スイッチ8mm（＋スペーサー5mm）＝123mm（128mm）
・右側グリップ・・・グリップ長115mm＋スペーサー5mm × 2＝125mm

で対応して頂く仕様となっております。また、スペーサーに関しては、上記はあくまでも参考なので、車両に合わせて適切な長さを入れてください。特にスロットル側はスロットル動作に支障のないようご注意ください。

●構成部品について



番号	部品番号	品名	個数
①	08T50-HAN-E01	グリップヒーター115L側	1
②	08T50-HAN-E11	グリップヒーター115R側	1
③	E08T50-HAN-S1	SPヒーター制御スイッチ	1
④	08Z51-HAN-E01	メインハーネス	1
⑤	08T49-HAN-E21	グリップスペーサー	3
⑥	IBOLT04006FB-T	M4イモネジ	1
⑦	08T50-EWA-E0H	アルミテープ	6
⑧	08T50-EWA-E0A	φ3.5オスギボシセット	2
⑨	08T50-EWA-E0B	φ3.5メスギボシセット	2
⑩	08T50-EWA-E0D	6mmアース端子	1
⑪	08T50-EWA-E0E	エレクトロタップ	2
⑫	08T50-HAN-E21	グリップエンドキャップセット	1
⑬	JJHAN530H01	グリップヒーターSP	1

※価格、品番等々は予告無く変更する場合がありますのでご了承ください。

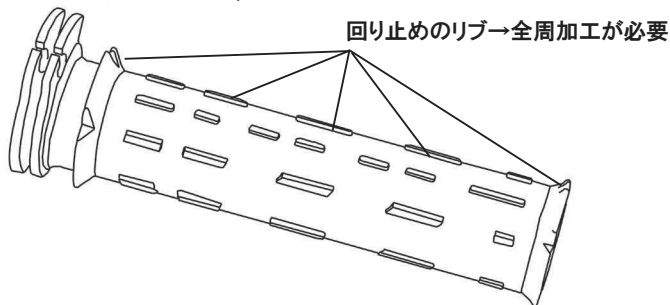


グリップヒーター装着について注意事項

※必ずお読みください

<スロットルパイプの加工について>

純正スロットルパイプは下図のようにグリップ回り止めのリブが立っています。そのためグリップヒーターの装着には、リブ加工する必要があります。ただし、リブを全部削り取ってしまうと削りすぎになるので、スロットルパイプの加工した部分の外径がφ26になるように加工してください。



ご自身で加工される場合、リブを削った後に一旦、接着剤は使用せずにグリップヒーターを差し込んで確認してください。手で差し込んでちょっときついくらいで、外そうとすれば外せるくらいならば、グリップヒーターのケーブルの角度、位置を確認し、接着剤を使用して取り付けしてください。差し込みに苦労するくらいきつい場合は加工不足なので、無理に押し込まず再度加工してください。

※無理やり押し込んだ場合、途中で奥まで入らなくなったり、ハンマーなどで叩き込んだりすると、グリップヒーターの破損に繋がりますので、絶対におやめください。

この場合、保証の対象外になり一切の保証ができませんのでご注意ください。

<取り付けについて>

グリップヒーターは簡単に抜けてしまうと大変危険なので、ハンドルやスロットルパイプとのクリアランスを小さくしています。そのため、組み付け時にはきつくて組み付けにくい場合があります。

・推奨取り付け方法・

グリップを取り付ける前に、グリップヒーターの説明書を参考にして配線加工を行い、電源が入る状態にします。電源をONにして、グリップヒーター自体をじっくり暖めてから、取り付けると幾分取り付けやすくなります。(目安は3分程度で、これ以上暖めるとグリップヒーターの変形や破損する恐れがありますのでお止め下さい。特にスロットル側は厚みが薄いので、手で触ってほんのり暖まっている程度でおやめください。)

このとき内側には接着剤を塗布しますが、熱で接着剤の成分が霧状になってしまう恐れがありますので、吸わないようにマスク等してから取り付けしてください。

また、パイプに差し込む時に途中で止めてしまうと接着剤でくっ付いてしまいます。途中でグリップヒーターを止めないようにぐるぐる回しながら差し込むとくっ付かないで取り付けできます。

※注意※

グリップヒーターを暖めるとかなり熱くなりますので火傷しないように注意してください。
また、暖め過ぎると変形、破損しますのでご注意ください。

・接着剤での取り付けについて・

付属のアルミシールではなく接着剤でがっちり接着したい場合には、コニシ製ウルトラ多用途などの耐熱性のある接着剤をご使用してください。その際にはすぐには接着されないので、使用した接着剤に記載されている硬化時間まで待ってから使用してください。

※注意してください※

グリップヒーターとハンドルバー(もしくはスロットルパイプ)のしめしろが、部品公差や加工具合によって変わること接着力が弱くなる場合もありますので、走行前にはかならず接着されていることを確認してください。

もし、緩んでいる場合には、アルミシールを追加するなどして接着し直してからご使用してください。

<Q&A>

ご質問、お問い合わせを多くいただいている事例について、下記にてQ&A方式にして記載してありますので、お問い合わせいただく前に一度ご確認ください。

Q: 事前にグリップを暖めたのに、右側(スロットル側)のグリップだけ硬くて入れにくい。

A: スロットルパイプには、グリップの回り止めのリブが表面に立っている場合が多いです。この場合には、加工が不十分だと考えられますので、グリップが入る部分全てのスロットルパイプの外径がφ26になるように加工してください。

Q: 左右のグリップで暖まりが違う。

A: 左側はハンドルパイプ(金属)に直付けのため、熱がハンドルパイプに逃げやすいためです。右側はスロットルパイプ(樹脂)に取り付けなので、熱が逃げにくくなっています。そのため、どうしても左側の暖まりが悪く感じてしまいます。

Q: 片側(もしくは両方)がまったく暖まらない。バッテリー電圧よりかなり異なった電圧を表示している。

A: グリップヒーターの配線が断線している可能性があります。テスターをお持ちなら、グリップのカブラー内に見える端子間抵抗値を測定して9~10Ω程度が正常値なので、断線していると全く違う抵抗値になります。この場合、グリップの交換になります。両方とも暖まらない場合、レギュレート機能が働いている可能性があります。レギュレート機能が働いているときには、LEDが点滅しているので、このとき暖まりは弱くなるもしくは全く加熱しなくなる可能性があります。設定した下限電圧値を下げるか、バッテリー電圧の低下が考えられますので、バッテリーの点検および交換をしてください。

Q: 取り付けしたグリップヒーターを外したい。

A: 取り付けるときには緩まないように接着剤などを塗布しているため、外すことはできません。無理やり外そうとすると故障の原因になるのでお止めください。

Q: 2台の車両に取り付けたが暖まり方が違う。

A: 車両のバッテリーの状態や容量、車両の発電量の違いによって暖まり方が異なる可能性があります。また、グリップヒーターを接続している配線の場所によっても暖まり方が異なる可能性があります。

Q: テスターで測定したバッテリー電圧値と制御スイッチの表示電圧が違う。

A: グリップヒーターの電源取得のために接続している位置や車両によっては、車両の配線による電圧降下が大きいものがあり、制御スイッチ部の表示とバッテリーの電圧値が異なる場合があります。

※デザイン及び仕様変更・価格等は予告なしに変更する場合がございます。

※弊社の取扱説明書等、十分ご確認ください。

※弊社商品以外の保証は一切お受けできませんのであらかじめご了承ください。

※本書やWEB上のイラスト、写真等の記載内容が本商品と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

注意

1. 本商品のパーツリストをもとに部品をご確認してから商品の取り付けをお願いします。
2. 取り付け・調整が終了したら、各部分のボルト・ナットの締め忘れが無いようにご注意ください。
3. 取り外した純正部品(ボルト等)は元に戻す際に必要になりますので、必ず保管してください。

有限会社エンデュランス 〒350-0822 埼玉県川越市大字山田1726 TEL 049-222-7770 FAX 049-226-1625
www.endurance-parts.com/